

一次洗浄・消毒廃止への取り組み

大井弥生^{1,2)} 木下まり子^{1,2)*} 井上一彦^{1,3)}

1) 国立病院機構鳥取医療センターICT

2) 同 看護部

3) 同 神経内科

Discontinuance of on-site pre-cleaning and pre-disinfection

Yayoi Oi^{1,2)}, Mariko Kinoshita^{1,2)*}, Kazuhiko Inoue^{1,3)}

1) Infection Control Team, National Hospital Organization Tottori Medical Center

2) Department of Nursing, National Hospital Organization Tottori Medical Center

3) Department of Neurology, National Hospital Organization Tottori Medical Center

*Correspondence: byoutou1@tottori-iryō.hosp.go.jp

要旨

鳥取医療センターにあるジェット・ウォッシャー超音波洗浄装置を有効的に使用し、病棟における一次洗浄・消毒を廃止して、中央化処理を行った。各病棟で洗浄・消毒を行うことにおいては、手洗いによる不完全な洗浄、現場の汚染、感染の危険、非効率的であることなどの問題があった。また、廃止に伴い、汚染された器材を安全に中央材料室に運ぶ方法、器材に付着した血液などの体液が乾燥しないための工夫、ジェット・ウォッシャーに器材を入れる時の感染防止対策などの問題点のあることが明らかとなった。これらの問題点の解決策として、運搬用に蓋付きステンレス容器を使用する、血液凝固抑制剤を使用する、中央材料室の作業者に感染対策(バリアプリコーション)の指導を行うなどの取り組みを行った。鳥取臨床科学 1(1), 226-229, 2008

Abstract

In order to use the Jet Washer Ultrasonic Cleaner effectively in the Tottori Medical Center, we discontinued pre-cleaning and pre-disinfection in patient-care areas and began central cleaning. We found several problems related to the on-site pre-cleaning and pre-disinfection in patient-care areas, including insufficiency of manual washing, contamination, possible risk of nosocomial infections and inefficiency of the on-site cleaning. With respect to such discontinuation, we noticed that we should develop the strategies: (i) to carry contaminated instruments safely from patient-care areas to the Central Sterile Supply Department (CSSD), (ii) to keep body fluid such as blood of patients attached on used instruments away from drying out before cleaning, and (iii) to prevent infection to us when we place used instruments into the Jet Washer Cleaner. As concrete strategies, we tried to use stainless containers with lids for the transport of instruments, to add anti-coagulants into the body fluid on the instruments, and to educate staff in the CSSD about infection prevention such as barrier precautions. *Tottori J. Clin. Res.* 1 (1), 226-229, 2008

Key Words: 感染リスク, 洗浄・消毒, ジェットウォッシャー超音波洗浄装置, 中央化, 血液凝固防止剤, バリアプリコーション; infection risk, cleaning and disinfection, Jet Washer Ultrasonic Cleaner, centralization of cleaning, anti-coagulant, barrier precautions

はじめに

わが国では 1990 年代より全自動洗浄装置の普及により、従来から行っていた病棟、外来における使用済み医療器材の現場での一次洗浄・消毒を廃止し、洗浄・消毒の中央化への推進がなされ始めた。それにより、現場での汚染の拡散防止、および職業汚染に繋がる危険性の防止、さらには熟練した専従職員による中央での洗浄によって、医療器材の良好な品質管理が行えるとされている。

鳥取医療センター（当院）は 2003 年、中央材料室にジェットウォッシャー超音波洗浄装置が設置された。しかし、病棟で使用した器材を洗浄・消毒して中央材料室に返納し、ジェットウォッシャーを使用していたため、2 度の洗浄・消毒を行っていた。このことは感染のリスクと無駄が明らかである。そのため、infection control team (ICT) の取り組みで、従来の方法を改善したいと考えた。問題を明らかにし、従来の方法から、病棟における一次洗浄・消毒の廃止を実施した。また、実施後の意識調査を行った結果も報告する。

I. 一次洗浄・消毒をすることによる問題点

1. 消毒液を感染・非感染と分けて使用していた。
2. デイスポ手袋のみ装着して洗浄していた。そのため飛び散りによる感染の危険性があり、シンクも汚染される。
3. 病棟で一次洗浄・消毒をした後で、中央材料室でジェットウォッシャーを使用していたため、洗浄・消毒を 2 度も行っていたことになる。

II. 当院のジェットウォッシャーについて

1. ジェット水流による洗浄・熱水消毒・乾燥の工程が全自動でできる。
2. 超音波洗浄機を使用しているため、微細な汚染を除去することができる。
3. 当院は 2003 年、中央材料室にジェットウォッシャー超音波洗浄装置（シャープ）が設置

された、そのため一次洗浄・消毒を廃止し、中央材料室で一括して洗浄・消毒を行う中央化とすることが適している。

III. 一次洗浄・消毒廃止に伴う問題点

1. 汚染された器材を、汚染の危険性がない密閉状態で病棟から中央材料室へ運ぶ方法。
2. 器材に付着した血液などの体液の乾燥を防ぐための工夫。
3. 中央材料室で、汚染された器材をジェットウォッシャーに移す時の感染予防の対策。

IV. 解決策

1. 密閉状態で病棟から中央材料室へ運ぶ方法
 - 1) 中央材料室運搬用トレイを準備する（蓋付きステンレス容器）（図 1）。
 - 2) 病棟は汚染した器材をトレイに入れる。



図 1 中央材料室運搬用トレイ

2. 付着した血液・体液について

- 1) 血液凝固防止剤（パワークイック）の使用。血液、その他の体液の付着部分にまんべんなく噴霧する（図 2）。



図 2 血液凝固防止剤の噴霧